

第3章

磨嘴子遺跡の概要

日本初の快挙！日中協働で一つの遺跡に学ぶ

遺跡のある武威市は、蘭州市から北西に300km離れた河西回廊の東端にあります。かつて前漢の武帝（紀元前156～87年）が設置した河西四郡のうちの涼州にあたります。漢代以降も軍事拠点として重視されたほか、文化・宗教の中心地としても栄えました。なかでも1969年に雷台から発見された後漢代の墳墓からは、現在、中国国家旅游局のシンボルともなっている「銅奔馬」が見つかりました。市内には高層ビルなどは少なく、街並みは今も古の雰囲気の色濃く残しています。



磨嘴子遺跡は、市街地から南に15km、岩砂漠が広がる台地の上にあります。この台地の南側には雑木河という変わった名前の川が流れています。標高は1,800～1,850mあり、東西約1,000m、南北約700mで面積約70万㎡と、とても広大な遺跡です。これでも甘粛省では小さい遺跡だということですから、中国大陸の雄大さを実感してしまいます。

磨嘴子遺跡から祁連山脈を臨む



1957年から1972年にかけて甘粛省博物館などにより4回の発掘調査が行われ、72基の墓が調査されました。気候が乾燥しているため、木俑、木簡、シルク製の衣服などがほとんど腐らずにそのままの状態が残っていました。これまでに1,700点あまりの多彩な文物が出土し、その中から4点が国宝に指定されました。ほかにも国宝級の文物が多くあります。



今回の調査では、新石器時代(今から約4,000年前)と漢代(前漢末期～後漢中期:今から2,000～1,800年前)の集団墓地が見つかりました。日本の地方自治体としては初めて中国との合同発掘調査が実現するという快挙に加えて、中国考古学に大きく貢献する成果も得られました。

合同発掘調査の目的

- ・ 秋田県と甘肅省が協力して発掘調査を実施する。
- ・ 正確な遺跡の地形図を作成する。
- ・ 新石器時代と漢代の墓を調査し、遺跡の内容を確認する。

磨嘴子遺跡測量図



合同発掘調査期間 のべ159日間

2003(平成15)年度 : 10月 5日～11月24日 50日間
2004(平成16)年度 : 7月 1日～ 9月13日 61日間
2005(平成17)年度 : 5月10日～ 7月 9日 48日間

合同発掘調査体制（所属・職名は当時）

秋田県調査団

平成15年度 団長(副隊長) 大野 憲司 県埋蔵文化財センター所長
 団員 村上 義直 県埋蔵文化財センター文化財主事
 新海 和広 県埋蔵文化財センター文化財主事

平成16年度 団長(副隊長) 櫻田 隆 県教育庁生涯学習課文化財保護室主幹
 団員 武藤 祐浩 県埋蔵文化財センター学芸主事
 加藤 竜 県埋蔵文化財センター文化財主事

平成17年度 団長(副隊長) 櫻田 隆 県教育庁生涯学習課文化財保護室主幹
 団員 谷地 薫 県埋蔵文化財センター学芸主事
 藤田 賢哉 県埋蔵文化財センター学芸主事

甘肅省調査団

団長(隊長) 王 輝(ワン・ファイ) 省文物考古研究所副所長(3か年)
 団員 趙 雪 野(ジャオ・シュエイエ) 省文物考古研究所副研究館員(3か年)
 李 永 寧(リー・ヨンニン) 省文物考古研究所館員(平成15年度)
 李 明 華(リー・ミンファ) 省文物考古研究所館員(平成15年度)
 龐 述 謙(パン・シューチェン) 省文物考古研究所館員(平成15年度)
 魏 美 麗(ウェイ・メイリー) 省文物考古研究所館員(平成16年度)
 馬 更 生(マア・ガンシャン) 省文物考古研究所高級工(平成15年度)
 盧 国 華(ル・グォファ) 省文物考古研究所高級工(平成16・17年度)
 王 琦(ワン・チイ) 省博物館館員(3か年)
 王 勇(ワン・ヨン) 省博物館館員(3か年)
 寧 志 銀(ニン・ジーイン) 武威市文物考古研究所館員(平成15年度)
 韓 小 豊(ハン・シャオフエン) 武威市文物考古研究所館員(平成16・17年度)



遺跡面積 617,500㎡

調査した遺構

■新石器時代(今から約4,000年前)

墓地に関する遺構	土坑墓(71基)、土器棺・埋設土器(26基)
集落に関する遺構	貯蔵穴(48基)、土坑(14基)、陶器窯(8基)

■漢代(今から約2,000年前)

墓地に関する遺構	土洞墓(31基)、土坑墓(2基)
----------	------------------



王輝團長と県交流員

